



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月11日

上場会社名 アキレス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5142 URL https://www.achilles.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日景 一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門統轄補佐 (氏名) 河野 和晃 (TEL) 03-5338-8238
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	40,800	12.0	△102	—	489	△42.8	166	△67.7
2022年3月期第2四半期	36,431	—	608	—	855	—	515	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,064百万円(110.2%) 2022年3月期第2四半期 982百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	10.73	—
2022年3月期第2四半期	32.83	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しているため、2022年3月期の各数値の対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	87,547	48,844	55.8	3,169.76
2022年3月期	80,123	47,728	59.6	3,049.81

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 48,844百万円 2022年3月期 47,728百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	86,000	13.2	100	△88.3	800	△49.8	200	△86.9	12.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	15,862,714株	2022年3月期	15,862,714株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	453,237株	2022年3月期	213,100株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	15,543,226株	2022年3月期2Q	15,708,172株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策と経済社会活動の両立により回復基調となった一方で、ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー・原材料価格の上昇などの影響がありました。日本経済も、経済活動の正常化に伴う回復が見られたものの、エネルギー・原材料価格の上昇や急激な円安などの影響により、先行き不透明な状況が継続しました。

このような事業環境のもと、当社グループは企業価値の増大を目指して、お客様が求める商品・ブランド力のある商品創りに注力してまいりました。具体的には感染症対策製品、省エネルギー関連製品、環境対応製品、防災関連製品、生活関連製品、インフラ整備関連製品などの重点分野、およびグローバル化へ積極的な事業展開を推進するとともに、継続してコストダウンおよび省エネルギー・廃棄物の削減に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高40,800百万円（前年同四半期比12.0%増）となりました。

営業利益は、エネルギー・原材料価格や物流費の上昇、円安の影響等への対応として、一層のコストダウン活動や価格改定を推進しましたが、102百万円の営業損失(前年同四半期は608百万円の営業利益)となりました。

経常利益は、為替相場が円安に推移したことにより、営業外収益に為替差益の計上がありました。前年同四半期に比べ366百万円減少し、489百万円（前年同四半期比42.8%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に比べ348百万円減少し、166百万円(前年同四半期比67.7%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

当社は主に企業向けの中間財と最終消費者向けの消費財を製造、販売しております。消費財がもつ当社のブランド力を中間財の拡販に有効活用していくためにも、今後、消費財への注力は重要との観点から、消費財・中間財に区分して記載しております。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。詳細は11ページ（セグメント情報等）に記載の通りであります。

<シューズ事業>

【消費財】

新型コロナウイルス感染者数減少に伴う市況の回復により、主力である衝撃吸収素材「ソルボセイン」搭載のコンフォートシューズ「アキレス・ソルボ」や、ジュニアスポーツシューズ「瞬足」、世界有数のランニングシューズブランド「BROOKS（ブルックス）」の販売が好調に推移し、前年売上を上回りました。

シューズ事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は5,343百万円と前年同四半期に比べ220百万円の増収（前年同四半期比4.3%増）となりました。

セグメント損失は、販売が好調に推移する中で、販売費の削減効果もありましたが、円安の進行による仕入コストの増加により564百万円（前年同四半期は425百万円のセグメント損失）となりました。

<プラスチック事業>

【中間財】

車輦内装用資材は、半導体不足等による自動車メーカーの生産が国内では回復基調に推移したものの、北米・中国市場における減産継続の影響により、前年売上を下回りました。

化成品は、中国でのロックダウンや欧州エネルギー事情などの影響により、国内外でエレクトロニ

クス用、エクステリア用フィルムが苦戦しましたが、北米での医療用フィルムの販売が大きく伸び、前年売上を上回りました。

建装資材は、床材、壁材ともに新柄が好調に推移し、前年売上を上回りました。

中間財の売上高は19,997百万円と前年同四半期に比べ3,434百万円の増収（前年同四半期比20.7%増）となりました。

【消費財】

防災対策商品は、エアーテントが伸び悩みましたが、米国向けゴムボートの販売が好調に推移し、前年売上を上回りました。

消費財の売上高は1,320百万円と前年同四半期に比べ165百万円の増収（前年同四半期比14.3%増）となりました。

プラスチック事業全体の当第2四半期連結累計期間の売上高は21,318百万円と前年同四半期に比べ3,600百万円の増収（前年同四半期比20.3%増）となりました。

セグメント利益は、販売が好調に推移したことによる利益の増加がありましたが、原材料価格や物流費の上昇等の影響により、前年同四半期に比べ6百万円減少の1,376百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。

<産業資材事業>

【中間財】

ウレタンは、寝具用ならびに車輛用が低調に推移し、前年売上を下回りました。

断熱資材は、戸建住宅向けのボード製品をはじめ、パネル製品、システム製品、スチレン製品が伸び、前年売上を上回りました。

工業資材は、半導体分野向けウエハー搬送用部材が国内、海外向けともに好調に推移し、前年売上を上回りました。

中間財の売上高は13,711百万円と前年同四半期に比べ491百万円の増収（前年同四半期比3.7%増）となりました。

産業資材事業全体の当第2四半期連結累計期間の売上高は14,138百万円と前年同四半期に比べ548百万円の増収（前年同四半期比4.0%増）となりました。

セグメント利益は、原材料価格や物流費の上昇等の影響により、前年同四半期に比べ436百万円減少の420百万円（前年同四半期比51.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は87,547百万円で前連結会計年度末に比較して7,424百万円増加しました。

資産の部では、流動資産は49,979百万円となり前連結会計年度末に比較して5,550百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が1,969百万円、商品及び製品が1,255百万円、売掛金が930百万円、原材料及び貯蔵品が778百万円増加したことによります。固定資産は37,567百万円となり前連結会計年度末に比較して1,873百万円増加しました。これは主に、投資その他の資産が173百万円減少しましたが、有形固定資産が2,002百万円増加したことによります。

負債の部では、流動負債は26,133百万円となり前連結会計年度末に比較して1,727百万円増加しました。これは主に、その他流動負債が369百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が1,379百万円、短期借入金700百万円増加したことによります。固定負債は12,569百万円となり前連結会計年度末に比較して4,580百万円増加しました。これは主に、長期借入金4,500百万円増加したことによります。

純資産の部は48,844百万円となり、前連結会計年度末に比較して1,116百万円増加しました。これは主に、利益剰余金が459百万円、自己株式の取得により322百万円、退職給付に係る調整累計額が194百万円減少しましたが、為替換算調整勘定が1,987百万円増加したことによります。以上の結果、自己資本比率は55.8%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は9,559百万円(前連結会計年度末比1,970百万円増加)となりました。

営業活動の結果、減少した資金は44百万円(前年同四半期は3,376百万円の収入)となりました。これは主に、減価償却費1,581百万円、仕入債務の増加1,311百万円、税金等調整前四半期純利益447百万円等の増加要因と、棚卸資産の増加1,782百万円、その他の負債の減少550百万円、法人税等の支払額497百万円、売上債権の増加434百万円等の減少要因によるものであります。

投資活動の結果、減少した資金は2,793百万円(前年同四半期比142百万円支出減)となりました。これは主に、固定資産の取得による支出2,809百万円によるものであります。

財務活動の結果、増加した資金は4,251百万円(前年同四半期は787百万円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払額625百万円の減少要因と、長期借入れによる収入4,500百万円、短期借入金の純増額700百万円の増加要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年8月9日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,590	9,560
受取手形	3,454	2,923
電子記録債権	4,591	4,963
売掛金	13,864	14,794
商品及び製品	9,271	10,527
仕掛品	1,690	1,862
原材料及び貯蔵品	2,530	3,308
その他	1,485	2,066
貸倒引当金	△50	△26
流動資産合計	44,428	49,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,536	12,165
機械装置及び運搬具(純額)	5,655	5,672
土地	4,157	4,168
建設仮勘定	2,680	3,906
その他(純額)	1,468	1,587
有形固定資産合計	25,499	27,501
無形固定資産		
	400	445
投資その他の資産		
投資有価証券	2,863	2,798
退職給付に係る資産	4,908	4,800
繰延税金資産	1,290	1,290
その他	784	782
貸倒引当金	△51	△51
投資その他の資産合計	9,795	9,621
固定資産合計	35,694	37,567
資産合計	80,123	87,547

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,551	13,930
電子記録債務	2,902	3,087
短期借入金	2,200	2,900
未払金	2,387	2,430
未払法人税等	405	209
資産除去債務	33	19
その他	3,926	3,556
流動負債合計	24,406	26,133
固定負債		
長期借入金	3,000	7,500
繰延税金負債	448	488
退職給付に係る負債	4,085	4,129
資産除去債務	370	369
P C B廃棄物処理引当金	39	39
その他	44	43
固定負債合計	7,988	12,569
負債合計	32,395	38,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,640	14,640
資本剰余金	4,838	4,838
利益剰余金	24,904	24,445
自己株式	△386	△709
株主資本合計	43,997	43,215
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	408	376
繰延ヘッジ損益	5	142
為替換算調整勘定	1,087	3,075
退職給付に係る調整累計額	2,229	2,035
その他の包括利益累計額合計	3,731	5,629
純資産合計	47,728	48,844
負債純資産合計	80,123	87,547

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	36,431	40,800
売上原価	28,630	33,090
売上総利益	7,801	7,709
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	2,821	3,117
広告宣伝費及び販売促進費	328	393
貸倒引当金繰入額	35	△24
給料手当及び福利費	2,728	2,813
退職給付費用	16	3
旅費交通費及び通信費	148	214
減価償却費	101	205
その他	1,012	1,088
販売費及び一般管理費合計	7,193	7,812
営業利益又は営業損失(△)	608	△102
営業外収益		
受取利息	14	11
受取配当金	24	21
持分法による投資利益	87	57
為替差益	34	373
不動産賃貸料	45	45
その他	116	134
営業外収益合計	324	644
営業外費用		
支払利息	12	19
支払補償費	43	8
その他	21	24
営業外費用合計	76	52
経常利益	855	489
特別利益		
固定資産売却益	0	5
投資有価証券売却益	-	4
補助金収入	77	-
特別利益合計	77	9
特別損失		
固定資産除却損	94	51
特別損失合計	94	51
税金等調整前四半期純利益	838	447
法人税、住民税及び事業税	205	212
法人税等調整額	117	68
法人税等合計	323	280
四半期純利益	515	166
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	515	166

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	515	166
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△96	△32
繰延ヘッジ損益	△51	136
為替換算調整勘定	717	1,802
退職給付に係る調整額	△194	△194
持分法適用会社に対する持分相当額	90	184
その他の包括利益合計	466	1,897
四半期包括利益	982	2,064
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	982	2,064
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	838	447
減価償却費	1,499	1,581
貸倒引当金の増減額(△は減少)	33	△24
受取利息及び受取配当金	△39	△33
支払利息	12	19
為替差損益(△は益)	△20	△102
持分法による投資損益(△は益)	△87	△57
固定資産除売却損益(△は益)	93	45
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△4
補助金収入	△77	-
売上債権の増減額(△は増加)	1,356	△434
棚卸資産の増減額(△は増加)	△578	△1,782
仕入債務の増減額(△は減少)	890	1,311
未払消費税等の増減額(△は減少)	△331	△353
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	57	43
その他の資産の増減額(△は増加)	222	79
その他の負債の増減額(△は減少)	△483	△550
小計	3,386	186
利息及び配当金の受取額	257	283
利息の支払額	△10	△20
保険金の受取額	67	4
補助金の受取額	77	-
法人税等の支払額	△401	△497
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,376	△44
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△0	1
固定資産の取得による支出	△2,924	△2,809
固定資産の売却による収入	0	6
投資有価証券の取得による支出	△12	△1
投資有価証券の売却による収入	-	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,935	△2,793
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	700
長期借入れによる収入	-	4,500
自己株式の取得による支出	△1	△322
配当金の支払額	△785	△625
財務活動によるキャッシュ・フロー	△787	4,251
現金及び現金同等物に係る換算差額	345	557
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1	1,970
現金及び現金同等物の期首残高	8,129	7,588
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,128	9,559

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	5,123	17,717	13,590	36,431	—	36,431
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	35	305	340	△340	—
計	5,123	17,753	13,895	36,772	△340	36,431
セグメント利益又は損失 (△)	△425	1,383	857	1,815	△1,206	608

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,206百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	5,343	21,318	14,138	40,800	—	40,800
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	49	303	353	△353	—
計	5,343	21,367	14,442	41,153	△353	40,800
セグメント利益又は損失 (△)	△564	1,376	420	1,233	△1,335	△102

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,335百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、防災マーケットのプロモーション先である地域・行政関係へのアプローチでのシナジー創出を図るため、防災・インフラ市場を主なターゲットとして活動してきた開発営業部を、市民の命と暮らしを守り安全・安心な社会を実現することを目的として設置した防災事業部に編入いたしました。

これに伴い、従来「産業資材事業」セグメントに含めておりました開発営業部の「断熱資材(土木関係)」等を、「プラスチック事業」セグメントにおける「防災対策商品」に含めることといたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	シューズ事業	プラスチック事業	産業資材事業	
消費財	5,123	1,155	—	6,278
中間財	—	16,562	13,220	29,783
その他	—	—	369	369
顧客との契約から生じる収益	5,123	17,717	13,590	36,431
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,123	17,717	13,590	36,431

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	シューズ事業	プラスチック事業	産業資材事業	
消費財	5,343	1,320	—	6,664
中間財	—	19,997	13,711	33,709
その他	—	—	426	426
顧客との契約から生じる収益	5,343	21,318	14,138	40,800
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,343	21,318	14,138	40,800